

 軽症	ステージA	構造的異常は認め慣れないが、心不全に進行するリスクが高い		
	ステージB	慢性心臓弁膜症が起こっていることを示唆する構造的異常が認められるが、心不全の臨床症状は認められない		
	B1	血行動態にわずかな影響を及ぼす僧帽弁逆流が認められる 心リモデリングは認められない		
	B2	血行動態に重大な影響を及ぼす僧帽弁逆流が認められる 心リモデリングが認められる	左心房拡大は治療する	ACE阻害薬・ピモベンダン製剤
	ステージC	構造的異常が認められ、現在あるいは過去に心不全の臨床兆候を発現している		フロセミド（トラセミド）などの利尿剤の追加を検討する
	C1	急性期（入院治療）		
	C2	慢性期（通院治療）		
	ステージD	心不全兆候が認められ、ステージCの標準的治療に対して難治性である		スピロノラクトンの追加を検討する（推奨）
	D1	急性期（入院治療）		
	D2	慢性期（通院治療）		
重症				